

## 馮夢龍と『平妖傳』、「三言」

佐藤晴彦

### 目次

#### はじめに

1. 『平妖傳』のこと
2. 話本の話し
3. 「三言」の調査
4. Patrick Hanan 氏の研究

#### はじめに

中国文学を代表するジャンルとして、「漢文、唐詩、宋詞、元曲」ということがよく言われます。中国文学の代表的ジャンルを表していると同時にそれぞれの時代の特徴を表しているから、人々が繰り返し使ってきたのだと思います。しかし、この表現は残念ながら元代で終わっていて明代以降がありません。明代を代表する文学史のジャンルは何でしょう？

それは恐らく小説ではないでしょうか。

通俗小説の代表となれば、すぐ思い出されるのが『三國志演義』、『水滸傳』、『西游記』、『金瓶梅詞話』の 4 種の作品です。これは文学史上「四大奇書」と呼ばれていますが、この呼び方は清代前期の書坊が販売促進のために考案したキャッチフレーズと言われています。私も四大奇書に興味を惹かれましたが、それ以上に興味を惹かれたのが明代末に活躍した馮夢龍でした。

馮夢龍 1574(萬曆 2)～1646(順治 3)は小説の改編・創作や戯曲の改編・創作さらに民歌収集など文学の様々な分野で活躍した人物で文学の領域で大きな足跡を残しました。そうした馮夢龍の様々な改編・創作のうち、私は『平妖傳』及び「三言」(『喻世明言[又『古今小説』]』、『警世通言』、『醒世恒言』)に興味を覚えたのです。

なお、講演の際は話本の研究に大きな足跡を残した Patrick Hanan 氏に関してほとんど言及していなかったのですが、講演後で Hanan 氏に関する質問が出ましたので、本稿では若干補うことにしました。

## 1. 『平妖傳』のこと

『平妖傳』という物語、実は 20 回本と 40 回本の 2 種あります。この 2 種『平妖傳』は、

「馮夢龍が創作した前半 15 回」 + 「20 回本『平妖傳』を 25 回に改編」  
⇒40 回本『平妖傳』

というように成立しました。だとしますと、当然のことながら、「原作 20 回分の言語」と「馮夢龍が加えた前半 15 回分+後半改編部分の言語」との間に差異が生じるはずで

しかし、太田辰夫先生は 40 回本『平妖傳』を翻訳された時、その解説で

「馮夢龍の増訂はかなり巧妙に綿密に行われているから、その内容・言語はともに統一あるものとなっていると称して大過ないであろう。」

と述べられています。

私は新旧両本『平妖傳』を読んだ時、直感的に新本『平妖傳』の馮夢龍増補部分と旧本の言語は何かが違うという印象を得ていましたから、太田先生のこの解説にはすぐには納得出来ませんでした。

というのも、旧本が仮に嘉靖年間の出版だとしても、その成立時期は明初の可能性がある一方、新本の出版は天啓年間です。とすれば両者には 200~250 年の時間差があることになります。これだけの時間差があれば言語に当然変化があったはずで、とすれば、両者の言語差を根拠として「三言」の成立を探求するという方法があるのではないかと思いました。こうした自分の構想をある時太田先生に伝えました。先生の『平妖傳』の解説に異を唱えるわけですからこわごわでした。

私の構想を静かに聞いておられた先生は、少し考えられた後、「うん、正しいね。」と一言発せられました。この一言を聞いた時の私の興奮度を想像していただけるのでしょうか？この言葉を聞いて私は千人力の力を得た気がしたものです。同時に指導教授の役割というのはこういう事なのか。若い研究者が一步を踏み出せず迷っている時、「この道を行きなさい。」と歩むべき方向を指し示すのが。太田先生のこの言葉を聞いて早や 40 年という月日が流れていますが、私は今でもこの恩が忘れられないでいます。

その時私が導き出した新旧『平妖傳』における言語的差異とは次のようなものです。

A 類：馮夢龍が使った語彙・表現

B 類：馮夢龍が使わなかった語彙・表現

A 類/B 類	現代語
難道、終不然／終不成	難道
險些兒／爭些兒、爭些箇	差(一)點兒
東西／物事、(東西)	東西
適纔、適間／適來、(適間)	剛纔
恁般／恁地	這樣・這麼、那樣・那麼
左近／左側	左右

## 2. 話本の話し

『平妖傳』はこれくらいにして、次に話本のお話しをしましょう。まず話本というのはそれまであまり話題にならなかったもので、話本の発見からお話しします。

### 2.1 話本の発見

- (1) 1925(大正 14)年、鹽谷温が内閣文庫で『全像古今小説』40 卷、『喻世明言』24 卷、『二刻拍案驚奇』40 卷、帝國圖書館で『醒世恒言』40 卷、『拍案驚奇』36 卷を偶然発見。
- (2) 鹽谷温門下の辛島驍らが滿鐵大連圖書館の大谷光瑞寄託書から『警世通言』28 卷、『古今小説』40 卷、『醒世恒言』40 卷を発見。
- (3) 鹽谷温門下の長澤規矩也が尾州徳川家逢左文庫から『警世通言』40 卷を発見。
- (4) 同じ頃中国でも、馬簾氏蔵本『警世通言』や孔徳『警世通言』34 卷が発見された。

こうした相次ぐ話本の発見により宋以来の話本の全貌が徐々に明らかになってきました。

それまでの話本の研究といえば、「三言」から抜粋した『今古奇觀』を利用していました。が、「三言」発見以後は「三言」を利用することになります。そこで「話本研究の隆盛」とも言うべきブームが起り、1930 年頃から鄭振鐸、超景深、譚正壁、孫楷第、胡士瑩等錚々たるメンバーが持論を展開しました。ところがそうした論の大半が、「この巻はこれこれの筆記に基づいて書かれているからいつ頃の成立だ。」という状況証拠からの推論に終始していたのです。従って私はどうもそうした論の展開には納得出来ず、もっと確実な、説得性がある根拠はないものかと考えました。そこで先ほど述べました 20 回本『平妖傳』と 40 回本『平妖傳』の言語の差が応用出来ないかと考えたのです。

### 3. 「三言」の調査

#### 3.1 『古今小説』の場合

対応する A 類、B 類の語・表現を『古今小説』に当てはめてみると、次のような結果となった。ただ、表が大きすぎるので、残念ながらここでは割愛せざるを得ません。佐藤説の概要は P.Hanan 説を紹介する章でふれます。

#### 3.2 『警世通言』の場合

対応する A 類、B 類の語・表現を『警世通言』に当てはめてみると、次のような結果となった。ただ、表が大きすぎるので、残念ながらここでは割愛せざるを得ません。佐藤説の概要は P.Hanan 説を紹介する章でふれます。

#### 3.3 『醒世恒言』の場合

対応する A 類、B 類の語・表現を『醒世恒言』に当てはめてみようとしたのですが、この頃から私の興味が『醒世恒言』と『石點頭』との関係に移ったため、『醒世恒言』における筆者と Hanan 氏説の相違の資料は残していませんでした。

### 4. Patrick Hanan 氏の研究

私が 20 回本『平妖傳』、4 回本『平妖傳』の言語的差異に興味を感じていた頃、話本に関して Patrick Hanan という先生がスケールの大きな研究をされていました。その関係論文は、

1967 *The Early Chinese Short Story A Critical Theory in Outline*(HJAS27)

1969 *The Authorship of Some Ku-chin Hsiao-shuo Stories*(HJAS29)

1970 *Sung and Yüan Vernacular Fiction: A Critique of Modern Method of Dating* (HJAS30)

1973 *The Making of the Pearl-sewn Shirt and the Courtesans Jewel Box* (HJAS33)

1973 *The Yün-men chuan : from Chantefable to Short Story Bulletin of the School of Oriental and African Studies*

などがあり、さらにこうした論文より遥かに深く体系化した書として、

1973 *The Chinese Short Story, Studies in Dating, Authorship, and Composition*: Harvard University Press

という本を出版されました。

Hanan 氏の研究をざっと見た限り、私とは方法論が異なっていました。自分の研究の途上で Hanan 氏の成果を取り込むとなると自分の研究の全体像も描けないと考えたものから、当時は敢えて無視することにしました。自分の研究が一段落した時、Hanan 氏の結

論とどこがどう違うのか論ずればよいと考えたわけです。

なお、Hanan 氏の研究については福満正博氏の書評「PATRICK Hanan's "The Chinese Short Story Studies in Dating, Authorship, and Composition"」が要領よくまとめられておられるので、大変参考になります。

#### 4.1 『古今小説』における Hanan 氏説と筆者の説の共通点、相違点

問題を明確にするために Hanan 説と筆者の見解を一覧表にすると次のようになります。

巻数作品名	Hanan 説	筆 者	巻数 作品名	Hanan 説	筆 者
1 珍珠衫	馮 夢 龍?	馮 <sub>1</sub> ?	21 錢婆留	馮 夢 龍	明人
2 金釵鈿	馮 夢 龍	馮 <sub>1</sub>	22 鄭虎臣	馮 夢 龍	馮 <sub>2</sub> ?
3 新橋市	m 巻 26,38 と同じ	S <sub>1</sub>	23 張舜美	Hsiung	熊龍・張生
4 閒雲菴	Hung20	雨窗・戒指	24 楊思温	Group A	S <sub>1</sub>
5 窮馬周	馮 夢 龍	馮 <sub>2</sub> ?	25 晏平仲	middle	元
6 葛令公	馮 夢 龍	馮 <sub>2</sub> ?	26 沈小官	m 巻 26,38 と同じ	S <sub>2</sub>
7 羊角哀	Hung21	欵枕・半角	27 金玉奴	馮 夢 龍	馮 <sub>2</sub> ?
8 吳保安	馮 夢 龍	馮 <sub>2</sub> ?	28 李秀卿	late	馮 <sub>2</sub>
9 裴晉公	馮 夢 龍	馮 <sub>1</sub>	29 明和尚	middle	明人
10 滕大尹	馮 夢 龍	馮 <sub>1</sub>	30 明悟禪師	Hung13	清平・五戒
11 趙伯昇	Group C	S <sub>1</sub>	31 鬧陰司	馮 夢 龍	馮 <sub>2</sub>
12 柳七官	馮 夢 龍	馮 <sub>2</sub> ?	32 胡母廸	馮 夢 龍	明人
13 張道陵	馮 夢 龍	馮 <sub>2</sub>	33 張古老	Group A	S <sub>1</sub>
14 陳希夷	馮 夢 龍?	明人	34 李公子	Hung27	欵枕・李元
15 史弘肇	Group A	S <sub>1</sub>	35 簡帖僧	Hung2	清平・簡帖
16 范巨卿	Hung22	欵枕・死生	36 禁魂張	M. Group A	S <sub>1</sub>
17 單符郎	馮 夢 龍?	明人	37 梁武帝	l.巻 1 と同じ	馮 <sub>2</sub> ?
18 楊八老	馮 夢 龍?	明人	38 任孝子	m.巻 3,26 と同じ	元
19 楊謙之	l.巻 37 と同じ	S <sub>2</sub>	39 汪信之	馮 夢 龍	馮 <sub>1</sub> ?
20 陳從善	Hung12	清平・陳巡	40 沈小霞	馮 夢 龍?	馮 <sub>1</sub>

1. Group A : Hanan 氏が 13 世紀末から 14 世紀初めに成立したとする巻。
2. Group B : Hanan 氏が Group A に近いが判定し難いとした巻。
3. Group C : Hanan 氏が 14 世紀末から 15 世紀初めに成立したとする巻。
4. middle(m.) : Hanan 氏が 1400 年から 1575 年の間に成立したとする巻。
5. late(l.) : Hanan 氏が 1550 年から 1627 年の間に成立したとする巻。
6. 馮夢龍 : Hanan 氏が by Feng Meng Long とする巻。(筆者の馮<sub>1</sub>馮<sub>2</sub>に相当)
7. 馮夢龍? : Hanan 氏が probably by Feng Meng Long とする巻。(筆者の馮<sub>1</sub>?馮<sub>2</sub>?に相当)
8. Hung : 洪楨編『六十家小説』所収の作品のうち、現存する作品とその番号。(筆者の清平、雨窗、欵枕に相当)
9. Hsiung : 熊龍峯によって出版されたもの。(筆者の熊龍に相当)
10. M : 一篇を「入話」「正文」に分けた時の「正文」部分。

#### 4.2 『警世通言』における Hanan 氏説と筆者の説の共通点、相違点

問題点を明確にするために Hanan 説と筆者の見解を一覧表にすると次のようになります。

す。

巻数	作品名	Hanan 説	筆者の見解	巻数	作品名	Hanan 説	筆者の見解
1	兪伯牙	小説傳記	貴賤交情	21	趙太祖	late	馮 <sub>2</sub>
2	莊子休	late	馮 <sub>2</sub> ?	22	宋小官	馮夢龍?	馮 <sub>1</sub>
3	王安石	馮夢龍	明人	23	樂小舎	Pm.?M馮?	明人
4	拗相公	馮夢龍	馮 <sub>1</sub>	24	玉堂春	late	明人
5	呂大郎	馮夢龍?	明人	25	桂員外	馮夢龍?	馮 <sub>2</sub>
6	兪仲舉	GroupC	S <sub>1</sub>	26	唐解元	馮夢龍?	馮 <sub>2</sub>
7	陳可常	middle	S <sub>2</sub>	27	假神仙	late	明人
8	崔待詔	GroupA	S <sub>1</sub>	28	白娘子	GroupC	S <sub>1</sub>
9	李謫仙	late	明人	29	宿香亭	GroupB	S <sub>2</sub>
10	錢舍人	GroupB	S <sub>2</sub>	30	金明池	GroupB	S <sub>2</sub>
11	蘇知縣	馮夢龍?	馮 <sub>1</sub>	31	趙春兒	馮夢龍?	明人
12	范鰲兒	馮夢龍?	明人	32	杜十娘	馮夢龍?	馮 <sub>1</sub>
13	三現身	GroupB	S <sub>1</sub>	33	喬彥傑	Hung18	雨窗・錯認
14	一窟鬼	GroupA	S <sub>1</sub>	34	王嬌鸞	late	明人
15	金令史	馮夢龍?	明人	35	況太守	late	明人
16	小夫人	GroupB	S <sub>2</sub>	36	皂角林	GroupC	S <sub>1</sub>
17	鈍秀才	馮夢龍?	馮 <sub>2</sub> ?	37	萬秀娘	GroupA	S <sub>1</sub>
18	老門生	馮夢龍	馮	38	蔣淑眞	Hung14	清平・刎頸
19	崔衙内	GroupA	S <sub>1</sub>	39	福祿壽	GroupC	S <sub>2</sub>
20	計押番	GroupA	S <sub>1</sub>	40	旌陽宮	鐵樹記	鐵樹記

備考

- 1.GroupA : Hanan 氏が 13 世紀末から 14 世紀初めに成立したとする巻。
- 2.GroupB : Hanan 氏が GroupA に近いが判定し難いとした巻。
- 3.GroupC : Hanan 氏が 14 世紀末から 15 世紀初めに成立したとする巻。
- 4.middle : Hanan 氏が 1400 年から 1575 年の間に成立したとする巻。
- 5.late : Hanan 氏が 1550 年から 1627 年の間に成立したとする巻。
- 6.馮夢龍 : Hanan 氏が by Feng Meng-Lung とする巻 (筆者の馮<sub>1</sub>馮<sub>2</sub>に相当)。
- 7.馮夢龍? : Hanan 氏が probably by Feng Meng-Lung とする巻 (筆者の馮<sub>1</sub>?馮<sub>2</sub>?に相当)。
- 8.Hung : 洪樞編『六十家小説』所収の作品のうち、現存する作品とその番号(筆者の清平、雨窗に相当)。

ただ不幸なことに Hanan 氏は 2014 年 4 月 27 日に亡くなりました。享年 87 歳。可能なら Hanan 説と自分の結論のどこがどう違うか話す機会を得たかったのですが、その機会を失ってしまい、非常に残念であります。心から Hanan 氏のご冥福をお祈りしたいと思います。